

災害時における迅速かつ適切な対応が図られるよう取組みを改善していきます。

中部局インターンシップを 各署で実施

【総務課 研修】 学生が中部森林管理局の実際の行政実務に接することにより、学生の学習意欲を喚起し、高い職業意識を育成するとともに、国有林野事業及び林野行政に対する理解を深めていただくことを目的として、平成二十七年中部森林管理局におけるインターンシップを八月三日から九月十一日の間、北信署、中信署、南信署、木曽署、飛騨署、岐阜署の六署で、学生一〇名を受け入れて実施しました。次の記事で、北信署と岐阜署がその状況を紹介します。

【北信署】 農林水産省就業体験（インターンシップ）を九月七日から十一日までの五日間の日程で実施しました。当署では岩手大学農学部・共生環境課程三年生一名を受け入れましたが、今回は、地元の長野県下高井農林高等学校から二名（グリーンデザイン科二年生、三年生各一名）も就労体験として受け入れました。

当署では、インターンシップの受け入れは初めての経験でしたが、体験内容は森林官の実務ガイドを基に、現場での実践的な業務を中心にしたカリキュラムとしました。

開講式終了後、署長室で、安全指導、

当署管内の概要説明等を行い、早速、現場に出て現地実習を行いました。

就業体験では、貸付地の現地確認、第一種境界標の巡検、セオドライト（トランシット）の取扱い、造林事業における監督・検査等補助業務（工程調査等）、除伐作業、収穫調査箇所の周囲測量及び毎木調査、製品生産事業の監督補助、素材検知、高性能林業機械の見学、治山・林道での監督補助業務及び治山現場での丸太枿谷止工（木製校倉式）、林業専用道新設工事の見学、保護林（戸隠森林植物園内）での植物保護バートル等多岐にわたって業務を体験しました。



輪尺を使用しての収穫調査

折しも、台風十七号、十八号の接近により生産現場が休止となったため、北欧製のホイール型高性能林業機械が実際に作業する様子を見ることは叶いませんで



採材及び素材検知の説明を受ける研修生

したが、実物の機械を目の当たりにした研修生は、その大きさや機能に驚いていました。

インターンシップ終了後、研修生からは「現場での実習は初めて体験する内容が多く、今後の進学、就職において大変参考になった」「森林管理署の幅広い業務内容に驚いた。林業や治山事業等に対する意識が一層高まり、理解を深めることができた」「熱心な講義をしていただき、有意義な時間となったことに感謝します」等の感想が寄せられました。今回は、三名体制になったことで共同作業ができたことから、連帯感も醸成されたようでした。

指導した職員からは、「複数の研修生がいたことでモチベーションが上がり有意義だった」との報告もあり、短い期間ではありましたが、学生、職員とも貴重な経験でした。



製品生産事業地を見学

個々には、金華山国有林内の登山道がボランティア団体等を含め様々な方々の力で維持されていること、生産現場では林業の生産性の向上等地域林業の活性化に向けた取組についても実施しているこ

【岐阜署】 八月二十四日から二十八日の五日間、岐阜大学及び岐阜工業高等専門学校（岐阜）の学生二名を受け入れ、現場業務の就業体験を行いました。カリキュラムは、金華山国有林での登山道補修と境界巡検、板取川民直治山事業地での監督業務、越原国有林での生産事業の監督業務と原木市場見学、七宗国有林での獣害対策、金華山国有林でのデジタルコンパス測量について体験していただきました。

参加した学生は、まず、森林管理署の事業が多岐にわたっていることに驚いたようでした。

と、獣害対策では地域と一体となって取り組みを進めていること等について体験を通じて理解していただきました。

また、獣害対策やデジタルコンパス測量では、当署の職員も参加して実施したことから、職員の技術向上への取り組みについても理解していただきました。



デジタルコンパス測量を実施

学生からは、「森林の役割は多様であり重点的に発揮されるべき機能に応じ、きめ細かな管理経営を行っていることが理解できた」「どの業務もいろんなことを理解しないと仕事は出来ない。本を読むことも重要だが、これからは山に行き実際に目で見て勉強したい」「治山事業について見学し、自分の将来やりたいことになった」との力強い感想と、この期間の感謝の言葉をいただき全日程を終りました。

ボランティアによる木工教室を開催

「名古屋事務所」 八月二十四日、「熱田白鳥の歴史館」と、隣接する「郷土の森」で地域住民を対象とした木工教室が、ボランティア（自称、森と木の達人グループ「フォレストサークル・あいち（FCA）」）の指導により実施されました。

昨年来、歴史館に來訪される方の中から、「気軽に森林整備をしたい」「自由な社会貢献活動に取り組みたい」といった相談が名古屋事務所に寄せられていました。今春、こうした共通の志を持った一般市民の方々が結集、FCAと命名し、森林整備等ボランティアとして活動が始まったものです。

このたび、歴史館をフィールドとして市民を対象とした「夏休み！木工教室」の催しを提案され、歴史館内の木工クラフトコーナーや名古屋林業土木協会が設立五十周年記念事業として整備された「郷土の森」の林内で、丸太切りなど林



丸太切りを初体験



組み立てて座り心地を確認

業体験を行うこととなりました。

当日は、残暑厳しいクスノキの木漏れ日の下、家族連れの参加者十六名が、FCA八名の指導により、丸太切りや切った丸太で「ペン立て」づくり、木工クラフトコーナーでは「ミニイス」や「マイ箸」づくりなどを行い、木（樹）との触れあいを楽しみました。

今回の催しはFCAが募集チラシの作成から当日の運営まで主体的に取り組み、名古屋事務所の展示館を通じた情報発信のサポーターとして今後の取り組みに期待されています。



濁川復旧治山工事

「現場見学会」の開催

「木曽署」 九月二十四日、昨年九月二十七日の御嶽山噴火から一年の節目を迎えるにあたり、王滝村濁川において治山工事現場見学会を開催したところ、地元王滝村の住民のほか下流域の方々、関係機関の担当者合わせて約四〇名の参加

がありました。

当日は、濁川展望台から一九八四年（昭和五十九年）に発生した長野県西部地震の災害復旧の現状と、この土石流対策で設置した治山ダム群により火山灰を含んだ土石流が減勢された様子を遠望した後、濁沢（洗い越し）へ移動し、昨年の噴火後に発生した土石流の痕跡が残る様子を間近で見いただきました。



治山工事の概要を説明する梅田総括治山技術官

その後、今年度施工中の治山ダム工事現場へ案内し、署担当者からパネル等を使い工事概要や進捗状況の説明を行いました。説明を聞きながら熱心に質問をする方やメモを取る方がいるなど、改めて地元住民の皆さんの関心の高さを感じました。

参加者からは、「土石流対策の現場を自分の目で見て安心した」「安心して暮



現場見学会の様子

らせるよう一日も早く完成させてほしい」等の感想や意見が寄せられました。

御嶽山噴火に伴う土石流対策については、治山ダムを王滝村御岳国有林濁川で二基、木曽町三岳黒沢御岳国有林倉本湯川で一基を計画しているところですが、今年度は、王滝村濁川については治山ダム一基の約四〇％、木曽町三岳の治山ダムは今年度の完成を目指して施工中です。

長野県においても、王滝村濁川下流において砂防堰堤一基を計画しており、地域の安全・安心の確保のため関係機関が連携して早期完成に向け取り組むこととしています。

中央アルプス

「山のお仕事」学習会

〔南信署〕八月二十九日、国交省天竜川上流河川事務所と南信森林管理署の合同

で宮田村の小中学生を対象に『中央アルプス「山のお仕事」学習会』を駒ヶ根高原砂防フィールドミュージアム砂防情報センターにおいて行い、小中学生合わせて八名が参加し、中央アルプスで行われている砂防堰堤工事や治山工事など、人々の暮らしを守るための「山のお仕事」について学びました。

当初は、屋内で学習会を行った後、黒川国有林において現在国交省が建設中の黒川第四砂防堰堤と、伊那谷総合治山事業所において実行した伊勢滝治山施設の現地見学を予定していましたが、当日はあいにくの雨天となり、砂防情報センターでの学習会のみの実施となりました。



熱心に説明を聞く小中学生

小中学生は、当署職員から、森林の働きや治山施設の役割について説明を受け、合わせて行った森林土壌における実

験では森林の働きを見て学び、また、天竜川上流河川事務所職員や砂防堰堤の工事業者から、土砂災害を防止するための砂防堰堤の役割について学び、砂防堰堤工事に使用される高所法面掘削機の映像には驚きの声を上げていました。

その後行った木工体験教室では、間伐材に電熱線を使って絵を描いたり表札を作るなどして、木とのふれあいを楽しみました。

今回の学習会に参加した小中学生は、真剣に職員の話に聞き入り、積極的に質問するなど、「山のお仕事」の役割と重要性は確実に伝わったと感じました。

今後もこのような機会を通して小中学生に森林の働きについて理解を深めてもらおうという取り組みを重ねていきたいと考えています。



〔南信署 伊那里森林事務所〕

首席森林官 大溝敏哉

伊那里森林事務所は、長野県伊那市長谷(旧上伊那郡長谷村)に位置し、南アルプス登山の玄関口として、毎年、夏山シーズンを中心に多くの登山客で賑わっています。また、近隣には桜の名所として全国的に有名な高遠城趾公園やパワースポットとして注目される分杭峠(ゼロ磁場)があります。

当森林事務所は、南アルプスの北側部

分を占める黒河内、浦、塩沢の各国有林約二〇、二〇〇鈔を管轄しており、塩見岳、鋸岳、甲斐駒ヶ岳(東駒ヶ岳)、そして仙丈ヶ岳等二、〇〇〇鈔から三、〇〇〇鈔級の雄大な美しい山並みがそびえ立ち、時々、雷鳥も姿を見せてくれます。

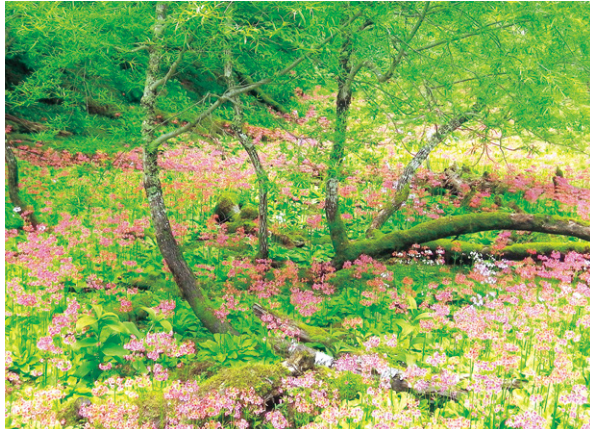


姿を見せた雷鳥

昨年度は、南アルプスが国立公園に指定されて五十周年の節目をむかえ、更にはユネスコエコパークやジオパークに登録されるなど記念の年となり、地元、伊那市では記念行事等が盛大に行われました。

しかし、この、おめでたい出来事の反面、南アルプスで最も深刻な問題となっているのがニホンジカによる食害です。全国のいたるところでも社会的問題となっていますが、当森林事務所部内においても、同様に深刻な問題です。

このため、南アルプスの貴重な高山植物をニホンジカから守るために、平成十九年度に設立された南アルプス食害対



可憐に咲くクリンソウ

策協議会（環境省、信州大学、長野県、伊那市そして南信森林管理署等関係機関で構成）が、平成二十年度から毎年、七月に仙丈ヶ岳（馬の背周辺）において、防鹿柵設置作業をボランティアも加わって実施しており、今年で、八回目となりました。本来であれば高山一帯が美しい花畑のはずが、十年程前からニホンジカの食害の影響により、一転して土むき出しの状態に変わりはて、荒地となつてしまいました。このため、毎年、地道に同協議会関係者（南信署職員も積極的に参加）の活動を続け、その、努力により少しずつ植物は回復傾向にあります。

このほかにも、当森林事務所部内のことから、平成十九年度から毎年、十月から十一月の狩猟解禁日前日の間、地元



防鹿柵ネット張り替え作業の様子

ており、ニホンジカが現れそうな林道沿線に、くくり罠を仕掛け、捕獲、駆除作業を行っています。最近の実績は、平成二十五年度が七十頭、昨年度は四十三頭を捕獲しました。今年度も、一頭でも多く捕獲、駆除を行いたいと考えています。

最後に、今年度も当森林事務所部内の各国有林において、製品生産をはじめ、造林、治山、林道等の請負事業が集中しています。数ヶ月後には、雪の季節を迎える頃となり、各請負業者の方々も最後の追い込みに入ってきています。

常に安全意識を保ち、現場巡視の際は請負業者にも今以上に気を配り無事故・無災害で業務を遂行するよう努めていきます。

人のういき

中部森林管理局人事

九月二十三日付

▽休職（東濃署主任事務管理官）
安江清文
（平成二十七年十月二十三日まで）

九月三十日付

▽退職（応募認定）（木曽署森林官（開田担当区））
清水岳志

▽退職（応募認定）（木曽署森林技術員（木曽福島森林事務所））
巾 泰三

▽休職（局総務企画部（総務課共済組合係））
吉原多恵子
（休職の期間を平成二十七年十二月三十一日まで更新する）

林野庁人事（抄）

十月一日付

▽林野庁林政部林政課広報官（中部森林管理局東濃森林管理署長）
間島重道

▽中部森林管理局東濃森林管理署長（林野庁国有林野部経営企画課課長補佐（森林環境保護班担当））
高塚慎司

▽中部森林管理局岐阜森林管理署流域保全治山対策技術官（岐阜西部治山事業所）（中部森林管理局計画保全全部治山技術専門官）
牧田政敏

▽中部森林管理局計画保全全部治山技術専門官（中部森林管理局計画保全全部専門官（災害調整））
曾我義孝

▽中部森林管理局計画保全全部専門官（災害調整）（中部森林管理局岐阜森林管理署総括治山技術官）
小瀬弘一

中部森林管理局人事

十月一日付

▽林野庁出向（計画保全全部専門官（災害調整））（岐阜署総括治山技術官）
小瀬弘一

▽計画保全全部計画課生態系保全係長（企画調整課情報管理係長）
井上日呂登

▽林野庁出向（林野庁林政部木材産業課付）（計画課生態系保全係長）
山本武郎

▽岐阜森林管理署流域保全治山対策技術官（岐阜西部治山事業所）（計画保全全部治山技術専門官）
牧田政敏

▽林野庁出向（計画保全全部治山課流域保全治山対策専門官）（治山課設計指導官）
野田和浩

▽東濃森林管理署総括治山技術官（岐阜署流域保全治山対策技術官（岐阜西部治山事業所））
奥村 豊

▽岐阜森林管理署総括治山技術官（東濃署総括治山技術官）
稲垣明敏

▽林野庁出向（林野庁林政部木材利用課）（東濃署）
上田茉由

行事・会議等の予定

◎木曽の国有林見学会（秋季）

11月5日 上松町

◎中部森林管理局有志協議会連絡協議会

11月13日 松本市

◎会計検査院実地検査

11月16日～11月19日

岐阜署・伊那谷総合治山事業所・局



鏡池より戸隠連峰を望む

◆戸隠そば
戸隠そばは、一般に、長野県長野市戸隠（旧戸隠村）の蕎麦を指し、岩手県のわんこそば、島根県の出雲そばとともに、日本三大そばの一つとされている。



山岳信仰の栄えた戸隠は、古くから修験者が多く集まって来ており、その携



そば屋が並ぶ戸隠の街道の様子

あつたと考えられています。

戸隠そばの特徴は、挽くときに甘皮を取らない挽きぐるみの蕎麦粉を使用し、延すときは四つ出し（四角く延す）をせずに丸延しにします。そして、一つのざるに五ないしは六束、開口部のつぶれた馬蹄形状に盛る「ぼっち盛り」と呼ばれる独特の盛り付けを行います。ぼっち（束）の数は戸隠内の地域で変わるそうです。

また、地元で取れる根曲り竹で編まれた円形のざるに盛り付けた「ざる蕎麦」は海苔はかけず、薬味には信州の伝統野菜に認定されている地元の「戸隠大根」と呼ばれる辛味大根が使われます。



戸隠の街道から見た戸隠神社中社鳥居

戸隠では、各家庭に蕎麦打ち職人がいると言われるくらい生活に密着しており、観光協会のホームページを見ても人口四、二〇〇人余りの集落に四十二店舗のそば屋が名を連ねているほどです。信州では十月下旬頃から新そば（蕎



「九ぼっち」の特盛りそば

麦）の季節を迎えますが、戸隠のそばは信州の中でも最も有名で、そば祭りも三〇年以上の歴史があります。

以前は、そば祭りの前夜祭にお猪口を購入して二時間食べ歩き放題の「大盤振る舞いそば」が人気でしたが、二〇一四年から「時間制限の食べ歩きはそばをゆっくり味わってもらえない」との理由から、五枚つづり二、〇〇〇円の「半ざる食べ歩き手形」を購入して十一月下旬まで好きな店の新そばを食べ歩けるようになりました。

戸隠の風土と自然条件により育てられた薫り高い風味の霧下そばに、伝統のそば打ち技術と冷たい清水が加わって引き締まった歯ざわりのそばを、皆さんも一度は味わってみては如何でしょうか。



戸隠神社奥社参道

アクセス方法

上信越自動車道信濃町ICから約三〇分

上信越自動車道長野ICから約六〇分
JR長野駅からバス、タクシーで約五〇分